

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料 2)

新計画(案)	現計画
目標年度 <u>令和 12 年度</u>	目標年度 <u>令和 12 年度</u>
沖縄県果樹農業振興計画	沖縄県果樹農業振興計画
令和 <u>8</u> 年 <u>○</u> 月 沖 縄 県	令和 3 年 3 月 沖 縄 県

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画（案）	現計画
目 次	目 次
第1 計画策定の基本的考え方	第1 計画策定の基本的考え方
1 計画策定の趣旨 ······	1 計画策定の趣旨 ······ 1
2 計画の目標年度 ······	2 計画の目標年度 ······ 1
第2 果樹農業振興計画	第2 果樹農業振興計画
1 果樹農業の振興に関する方針	1 果樹農業の振興に関する方針
(1) 果樹農業の振興に関する基本方針 ······	(1) 果樹農業の振興に関する基本方針 ······ 1
<u>(2) 目標達成指標および業績評価指標の設定 ···</u>	<u>(2) 目標達成指標および業績評価指標の設定 ···</u>
<u>(3) 果樹の種類別の振興方針 ······</u>	<u>(3) 果樹の種類別の振興方針 ······ 3</u>
2 品目毎の栽培面積と生産目標 ······	2 品目毎の栽培面積と生産目標 ······ 13
3 自然的経済的条件に応ずる近代的な果樹園経営の指標	3 自然的経済的条件に応ずる近代的な果樹園経営の指標
(1) 栽培に適する自然的条件 ······	(1) 栽培に適する自然的条件 ······ 14
<u>(2) 高温障害及び対策技術 ······</u>	<u>(2) 高温障害及び対策技術 ······</u>
<u>(3) 近代的な果樹園経営の指標 ······</u>	<u>(3) 近代的な果樹園経営の指標 ······ 15</u>
4 土地改良その他生産基盤の整備に関する事項	4 土地改良その他生産基盤の整備に関する事項
(1) 果樹園の土地基盤整備計画 ······	(1) 果樹園の土地基盤整備計画 ······ 16
5 果実の集荷、貯蔵又は販売の共同化その他果実の流通の合理化に関する事項	5 果実の集荷、貯蔵又は販売の共同化その他果実の流通の合理化に関する事項
(1) 果実の流通の合理化の基本方針 ······	(1) 果実の流通の合理化の基本方針 ······ 17
(2) 果実の用途別出荷量の見通し ······	(2) 果実の用途別出荷量の見通し ······ 17
(3) 果実の集出荷体制および施設の整備方針 ······	(3) 果実の集出荷体制および施設の整備方針 ······ 18
(4) 出荷規格の改善等の方針 ······	(4) 出荷規格の改善等の方針 ······ 19
6 果実加工の合理化に関する事項	6 果実加工の合理化に関する事項
(1) 果実加工に関する基本的方針 ······	(1) 果実加工に関する基本的方針 ······ 19
7 広域濃密生産団地形成に関する方針	7 広域濃密生産団地形成に関する方針
(1) 広域濃密生産団地形成に関する基本的方針 ······	(1) 広域濃密生産団地形成に関する基本的方針 ······ 20
(2) 広域濃密生産団地の概要 ······	(2) 広域濃密生産団地の概要 ······ 20
<u>8 その他必要な事項</u>	<u>8 県産果実の安全・安心の確立 ······ 21</u>
(1) 圏域の特性を活かした果樹の振興方針 ······	<u>9 その他必要な事項</u>
	(1) 圏域の特性を活かした果樹の振興方針 ······ 21

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画(案)	現計画
<p>第1 計画策定の基本的考え方</p> <p>1 計画策定の趣旨 果樹農業振興特別措置法に基づき、本県の果樹農業の維持・発展を目指すため、国の「果樹農業振興基本方針（令和<u>7年</u>4月）」の趣旨を踏まえ、本県果樹農業施策の指針となる「沖縄県果樹農業振興計画」を策定する。 また、本計画は、沖縄県が定める「<u>新・沖縄21世紀農林水産業振興計画</u>」等と連動させ、目標達成に向けて取り組むこととする。</p> <p>2 計画の目標年度 目標年度：令和12年度 <u>国の「果樹農業振興基本方針」は、今後20年程度を見据えた5年間の基本方針として定めている。これに基づき、本県の果樹農業振興計画の計画期間は5年間に定める。</u></p> <p>第2 果樹農業振興計画</p> <p>1 果樹農業の振興に関する方針</p> <p>(1) 果樹農業の振興に関する基本方針 本県の果樹は、亜熱帯地域の温暖な気候と土壌の特性を生かし、パインアップル、マンゴー等の熱帯果樹をはじめ、シークヮーサー等のかんきつ類、多種多様な果樹が栽培され、地域農業の振興に大きな役割を果たしている。<u>令和6年度</u>の果実産出額は<u>70億円</u>で、本県農業産出額の<u>7.7%</u>を占めている。その中でも、マンゴーおよびパインアップルについては、国内の多様な果実需要の高まりにより、栽培面積、生産量は<u>安定的に推移</u>している。 さらに、消費者の機能性成分に対する関心の高まりや、<u>観光需要がコロナ禍前の水準まで回復したこと</u>で、県産果実の消費拡大が見込まれており、パインアップル、マンゴー以外の品目においても、生産量の増大が期待される。</p> <p>しかし、生産現場においては、高齢化の進行や担い手不足等により果樹農家戸数は減少している。また、放任園の増加等により生産基盤のぜい弱化が進むとともに、気候変動に伴う異常気象、台風強度の増大、高温化や降水の極端化、また、鳥獣・病害虫による被害等により生産環境は不安定な状況にある。</p>	<p>第1 計画策定の基本的考え方</p> <p>1 計画策定の趣旨 果樹農業振興特別措置法に基づき、本県の果樹農業の維持・発展を目指すため、国の「果樹農業振興基本方針（令和<u>2年4月</u>）」の趣旨を踏まえ、本県果樹農業施策の指針となる「沖縄県果樹農業振興計画」を策定する。 また、本計画は、沖縄県が定める「沖縄21世紀農林水産業振興計画」等と連動させ、目標達成に向けて取り組むこととする。</p> <p>2 計画の目標年度 目標年度：令和12年度 <u>[追加]</u></p> <p>第2 果樹農業振興計画</p> <p>1 果樹農業の振興に関する方針</p> <p>(1) 果樹農業の振興に関する基本方針 本県の果樹は、亜熱帯地域の温暖な気候と土壌の特性を生かし、パインアップル、マンゴー等の熱帯果樹をはじめ、シークヮーサー等のかんきつ類、多種多様な果樹が栽培され、地域農業の振興に大きな役割を果たしている。<u>平成30年度</u>の果実産出額は<u>60億円</u>で、本県農業産出額の<u>6.1%</u>を占めている。その中でも、マンゴーおよびパインアップルについては、国内の多様な果実需要の高まりにより、栽培面積、生産量が<u>増加傾向</u>にある。 さらに、<u>近年は</u>消費者の機能性成分に対する関心の高まりや、<u>本県を訪れる観光客の増加による観光・リゾート産業と関連した</u>県産果実の消費拡大が見込まれており、パインアップル、マンゴー以外の品目においても、生産量の増大が期待される。</p> <p>しかし、生産現場においては、高齢化の進行や担い手不足、放任園の増加等により、<u>生産基盤のぜい弱化が進むとともに、気候変動の影響による異常気象や台風の大型化、鳥獣・病害虫による被害等、生産が不安定な状況</u>にある。 また、<u>地球温暖化</u>の進行により、他県においても熱帯果樹類の生産に対する気運が高まっており、今後、産地間競争が増してくると想定される。さらに、<u>新型</u></p>

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画（案）	現計画
<p>また、<u>気温上昇</u>の進行により、他県においても熱帯果樹類の生産に対する気運が高まっており、今後、産地間競争が増してくると想定される。さらに、<u>国際情勢</u>や社会情勢、景気・消費動向の変化のような不測の事態にも、その状況を的確に把握し対応する必要性が生じている。</p> <p>このような本県果樹農業を取り巻く環境変化に対応するため、産地協議会の活動強化および産地自らが目指すべき具体的な姿を示した果樹産地構造改革計画の策定を推進し、計画生産・出荷の可能な拠点産地の育成を強化する。</p> <p>また、就農相談および各種資金や補助事業の活用支援、農地の斡旋等を通じて意欲ある担い手の育成・確保に努め、気候変動や労働生産性の向上等に対応した栽培施設、農業用機械・設備の導入を推進し、生産基盤の強化を図る。</p> <p>さらに、農業生産工程管理(GAP)、環境保全型農業、総合的病害虫管理(IPM)等の取組による食の安全・安心や環境に配慮した生産供給体制の構築を推進し、消費者の信頼確保に努める。</p> <p>ア 果樹産地の形成と生産供給体制の強化</p> <p>(ア) 果樹産地ビジョンの確立と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市場ニーズ等に対応した、定時・定量・定品質の生産・供給<u>を担い、おきなわブランドを推進できる</u>、競争力のある拠点産地の形成および強化を図る。 ● 産地協議会の設置および活動の強化、産地の目標、担い手の明確化、販売戦略等を示した果樹産地構造改革計画の策定を<u>支援</u>する。 <p>(イ) おきなわブランドの確立と生産供給体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 消費者ニーズや<u>気候変動</u>に対応した品種・品目の導入を推進する。 ● 労働生産性の向上を図るため、栽培施設の整備、優良品種の導入、スマート農業技術等を活用した環境制御技術および機械作業体系の導入を推進する。 ● 生産・出荷の組織化を推進し、高品質かつ安定生産可能な産地形成を図る。 ● 試験研究機関等における新品種の開発を強化する。 ● 県育成品種および需要に応じた優良種苗の安定供給体制を整備する。 <p>イ 流通・販売・加工対策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● おきなわブランドの確立を図るため、出荷規格の遵守、共選共販を一層強化するとともに、選果システムの高度化を推進し、<u>安定供給体制を整備する</u>。 ● <u>商標を活用した県産果実の認知度向上</u>および販売力強化を推進する。 ● 消費者ニーズの変化や<u>新たな需要</u>に適切に対応するため、情報技術を駆使した販売戦略の強化および鮮度保持<u>や流通コストを考慮した</u>輸送システムの構築を推進する。 	<p>コロナウイルス感染症拡大に伴う社会情勢や景気・消費動向の変化のような不測の事態にも、その状況を的確に把握し、対応する必要性が生じている。</p> <p>このような本県果樹農業を取り巻く環境変化に対応するため、産地協議会の活動強化および産地自らが目指すべき具体的な姿を示した果樹産地構造改革計画の策定を推進し、計画生産・出荷の可能な拠点産地の育成を強化する。</p> <p>また、就農相談および各種資金や補助事業の活用支援、農地の斡旋等を通じて意欲ある担い手の育成・確保に努め、気候変動や労働生産性の向上等に対応した栽培施設・農業用機械・設備の導入を推進し、生産基盤の強化を図る。</p> <p>さらに、農業生産工程管理(GAP)、環境保全型農業、総合的病害虫管理(IPM)等の取組による食の安全・安心や環境に配慮した生産供給体制の構築を推進し、消費者の信頼確保に努める。</p> <p>ア 果樹産地の形成と生産供給体制の強化</p> <p>(ア) 果樹産地ビジョンの確立と実践</p> <p><u>市場ニーズ等に対応した、定時・定量・定品質の生産・供給が可能な拠点産地の形成による産地体制の強化</u>を図るため、<u>関係機関で構成する産地協議会の設置</u>および活動の強化、<u>産地自ら</u>産地の目標、担い手の明確化、販売戦略等を示した果樹産地構造改革計画の策定を推進し、競争力のある産地形成を目指す。</p> <p>(イ) おきなわブランドの確立と生産供給体制の強化</p> <p><u>消費者ニーズや環境の変化</u>に対応した品種・品目の導入を推進する。</p> <p>また、労働生産性の向上を図るため、栽培施設の整備、スマート農業技術等を活用した機械作業体系および環境制御技術の導入、生産・出荷の組織化を推進し、高品質かつ安定生産可能な産地形成を図る。</p> <p>さらに、試験研究機関等における新品種の開発を強化するとともに、優良種苗の安定供給体制を整備する。</p> <p>イ 流通・販売・加工対策の強化</p> <p><u>おきなわブランドの確立を図るため、出荷規格の遵守、共選共販を一層強化するとともに、選果システムの高度化を推進する</u>。</p> <p>また、消費者ニーズの変化に適切に対応するため、情報技術を駆使した<u>安定供給体制の確立</u>および販売戦略の強化を推進するとともに、鮮度保持に留意した流通システムおよび低コスト輸送システムの構築を推進する。</p>

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画（案）	現計画
<p>●国内および海外に向けた販売戦略を構築するとともに、積極的な販売対策を推進する。</p> <p>●加工については、消費者ニーズにあった加工品開発等による需要の創出・拡大を図るとともに、加工施設の高度化による生産性の向上を図る。</p> <p>●加工原料用果実の生産については、他産業の参入を促し労働力の確保に努めることにより、安定生産および品質の向上を図る。</p>	<p>販売については、国内および海外への販売戦略を構築するとともに、積極的な販売対策を推進する。</p> <p>加工については、消費者ニーズにあった新製品の開発を推進し、需要の拡大を図るとともに、加工施設の高度化による生産性の向上を図る。</p> <p>また、加工原料用果実については、安定生産および品質の向上を図る。</p>
<p>ウ 県産果実の安全・安心の確立</p> <p>●消費者の健康志向や環境に対する意識の高まりに対応するため、農業生産工程管理（GAP）手法の導入、環境保全型農業の推進、総合的病害虫管理（IPM）等の取組により、食の安全・安心や環境に配慮した県産果実の生産供給体制の構築を推進する。</p> <p>●エコファーマーの育成や「沖縄県特別栽培農産物」の生産拡大を図り、環境保全型農業を推進する。</p> <p>●有害な侵入害虫等の警戒調査および侵入防止・防除を進めるとともに、適正な出荷体制を維持する。</p>	<p>ウ 県産果実の安全・安心の確立</p> <p>消費者の健康志向や環境に対する意識の高まりに対応するため、農業生産工程管理（GAP）手法の導入、環境保全型農業の推進、総合的病害虫管理（IPM）等の取組により、食の安全・安心や環境に配慮した県産果実の生産供給体制の構築を推進する。</p>
<p>エ 意欲ある担い手への支援と労働力の確保</p> <p>●新規の担い手を確保・育成するため、就農相談への誘導および技術習得、園地の確保等を支援する。</p> <p>●未収益期間が長く専門的な栽培技術・知識の習得を必要とする果樹の特性を考慮したトレーニングファーム等の整備を推進する。</p> <p>●生産性向上や規模拡大等の意欲のある担い手を対象に、各種資金や補助事業等を活用した施設整備や園地の集積等を支援する。</p> <p>●季節的な作業ピーク時に労働力を確保するため、作業受委託体制の整備を推進する。</p>	<p>エ 意欲ある担い手への支援と後継者の確保</p> <p>意欲ある担い手を育成・確保するため、新規就農者の確保等について就農相談・支援活動を強化し、各種資金や補助事業等の活用や技術取得等を支援する。</p> <p>また、高齢者や離農者が所有する園地については、農地中間管理機構等を活用した意欲ある担い手への斡旋のほか、第三者継承を支援するなど、生産基盤の有効利用や園地集積・集約化を推進する。（ア、カの欄へ記載）</p>
<p>オ 技術開発および普及体制の強化</p> <p>●労働生産性および品質の向上を図るため、試験研究機関を中心に省力栽培技術および高品質果実安定生産技術の開発を推進する。</p> <p>●気候変動の影響により発生が多くなると想定される病害虫の診断・防除技術の開発および気候変動に対応する新品種の開発を推進する。</p> <p>●生産現場と連携した現地試験や実証展示圃の設置等による、新技術の効率的な普及推進指導体制を強化する。</p> <p>●スマート農業技術について、本県の果樹栽培に適応した技術開発および技術実証を推進する。</p>	<p>オ 技術開発および普及体制の強化</p> <p>労働生産性の向上および品質の向上を図るため、試験研究機関を中心に省力栽培や低コスト化に着目した生産技術および高品質果実安定生産技術、気候変動の影響により発生が多くなると想定される病害虫の診断・防除技術の開発を推進する。また、生産現場と連携した現地適応試験および実証等による、新技術の効率的な普及推進指導体制を強化する。</p>
	<p>カ 生産基盤の整備</p>

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画（案）	現計画
<p>カ 生産基盤の整備</p> <p>(ア) 果樹園の土地基盤整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>自然災害リスクを軽減し安定生産を図るため、耐候性栽培施設等の整備を推進する。</u> ● <u>労働生産性向上を図るため、省力化や機械導入等が可能な園地整備を推進する。</u> ● <u>農作業の作業性および安全性の向上を図るため、管理道や傾斜の緩和等の整備を推進する。</u> ● <u>生産環境や環境保全を図るため、排水性改善やかん水施設の整備、鳥獣害対策施設、防風設備・防風林、グリーンベルトの整備等を推進する。</u> <p>(イ) スマート農業、機械化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>技術開発が進むスマート農業等の新技術については、導入に向けた通信基盤等の環境整備や技術者等の人材育成を推進する。</u> ● <u>スマート農業技術を含めた機械作業体系の導入を踏まえ、機械化に適した樹形の導入や園地の整備を推進する。</u> <p>(ウ) 園地の集積・集約化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>生産基盤の有効活用を図るため、離農者が所有する園地の継承を支援する。</u> ● <u>果樹産地構造改革計画に位置付けられた地域の中核となる担い手への園地集積・集約化を図り、栽培管理の効率化および労働生産性の向上を推進する。</u> <p>(2) 目標達成指標および業績評価指標の設定</p> <p>国的基本方針において、生産目標の達成を実効的なものとするため、KGI (Key Goal Indicator : 重要目標達成指標) と、KPI (Key Performance Indicator : 重要業績評価指標) が設定されている。本計画では、主要項目および拠点産地認定のある品目について指標を設定した。なお、令和4年、5年の平均を現状とし、令和12年を目標とする。<u>拠点産地認定がある品目は、品目ごとに設定している。</u></p>	<p><u>労働生産性の向上や気候変動の影響により近年激化している自然災害のリスク軽減を図るため、園地の土壤改良や排水性改善、管理道やかん水施設、耐候性栽培施設、鳥獣害対策施設、防風施設、防風林、グリーンベルト等の生産基盤の整備を推進する。</u></p> <p>(追加)</p>

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料 2)

新計画（案）	現計画
<p>OKGI 果樹全体の生産量：13,122t→20,342t 　うち、加工用：4,851t→7,596t 果樹全体の面積：1,185ha→1,283ha 抱点産地数：27 産地→27 産地 新規就農者数（果樹）：年間 45 人以上</p> <p>OKPI 果樹産地構造改革計画策定数：2 件→22 件 展示園設置件数：年間 5 件以上 産地協議会数：45 件（R 5）→47 件 果樹品評会の実施回数：年 2 回→年 2 回 優良農家表彰者数：計画期間の累計 2 名（経営体）</p>	<p>(2) 果樹の種類別の振興方針 パインアップル 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ●主に本島北部および八重山地域の酸性土壌で栽培され、本県果樹栽培面積の<u>50%</u>、果樹産出額の<u>約30%（令和4年度）</u>を占める。 ●平成2年の輸入自由化等にともなう価格の低迷および生産者の高齢化等により生産量は減少したが、生食用品種の生産振興や加工原料の増産に向けた取組等により、<u>面積および生産量を維持している。</u> ●優良品種が開発され<u>普及が進んでいる</u>が、<u>市場等での認知度向上が課題である。</u> <p>振興方針 (加工用・生食用共通対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●<u>担い手の育成、新規就農者の育成</u>を推進する。 ●<u>生産性や品質の向上を図るため、優良品種等への転換の推進および栽培技術指導や病害虫防除技術指導を実施する。</u> ●<u>機械化および省力化による生産性の向上を図る。</u> ●<u>安定生産、品質の向上を図り、防風林の整備および鳥獣害防止施設等の導入を推進する。</u> ●<u>赤土流出対策等、環境に配慮した取組を推進する。</u> ●<u>優良品種の開発・普及を推進する。</u> ●<u>農地の集積や流動化により意欲ある担い手の規模拡大を図る。</u> <p>(加工用対策)</p> <p>(2) 果樹の種類別の振興方針 パインアップル 現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ①主に本島北部および八重山地域の酸性土壌で栽培され、本県果樹栽培面積の<u>42%</u>、果樹産出額の<u>20%（H30）</u>を占める。 ②平成2年の輸入自由化等にともなう価格の低迷および生産者の高齢化等により生産量は減少したが、生食用品種の生産振興や加工原料の増産に向けた取組等により、<u>平成26年度以降は増加傾向に転じている。</u> ③優良品種が開発され<u>ており、普及が進んでいる。</u> <p>振興方針 (加工用・生食用共通対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①<u>担い手の育成、新規就農を推進する。</u> ②<u>機械化および省力化による生産性の向上を図る。</u> ③<u>防風林の整備、鳥獣害防止施設等の導入を推進し、安定生産および品質の向上を図る。</u> ④<u>赤土流出対策等、環境に配慮した取組を推進する。</u> ⑤<u>優良品種の開発・普及を推進する。</u> ⑥<u>農地の集積や流動化により意欲ある中核農家の規模拡大を図る。</u> <p>(加工用対策)</p>

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画(案)	現計画
<p>●原料果実の安定確保と品質の向上を図り、優良種苗の供給体制および農作業受委託体制の整備を推進する。</p> <p>●加工品の開発および販路開拓・消費拡大を図るため、加工産業や観光産業等との連携を推進する。</p> <p>(生食用対策)</p> <p>●果実の高品質化や出荷期間の拡大を図るため、栽培施設等の導入および新品種の開発や栽培技術の開発とその普及を推進する。</p> <p>●優良品種の種苗供給体制を整備する。</p> <p>●出荷果実の高品質化を図り、非破壊選果機を活用した品質管理の徹底、鮮度保持体系の高度化に取り組む。</p> <p>●鮮度保持やコストを考慮した輸送体系の高度化に取り組む。</p> <p>●販路開拓・消費拡大を図るために、加工産業や観光産業との連携を推進する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>OKGI 面積：312ha→319ha 生産量：7,085t→9,570t うち生食用果実（出荷量）：4,690t（R5）→6,583t（R12） 加工用果実（出荷量）：1,860t（R5）→2,700t（R12） 単収：2.27t/10a→3.00t/10a</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>OKPI 高単収な優良品種「沖農P19」の植付割合：計画期間の累計 1.5%→3% 優良種苗増殖産地協議会数：6件→8件</p> </div> <p>かんきつ類</p> <p>(1) 現状</p> <p>(ア) うんしゅうみかん</p> <p>●本島北部および中部地域で栽培されており、生産量は減少傾向である。</p> <p>●日本一出荷の早い露地みかんとして、一定の需要がある。</p> <p>●生産者の高齢化等により、担い手が減少している。</p> <p>(イ) タンカン</p> <p>●本島北部地域で栽培され、本県晩生かんきつ類の主要品目となっている。</p> <p>●香りが良く、食味も優れていることから安定した需要がある。</p> <p>●生産者の高齢化等により、担い手が減少している。</p> <p>(ウ) シークワーサー</p>	<p>①計画的な優良種苗の供給と農作業受委託体制の整備等による原料果実の安定確保と品質の向上を図る。</p> <p>②加工産業や観光産業との連携を推進し、加工品開発および消費宣伝による販路開拓・消費拡大を図る。</p> <p>(生食用対策)</p> <p>①新品種や栽培施設の導入、栽培管理技術の開発・普及等により、果実の高品質化や出荷期間の拡大を図る。</p> <p>②優良品種の種苗供給体制を整備する。</p> <p>③非破壊選果機を活用した品質管理の徹底、鮮度保持体系の高度化に取り組みブランド化を図る。</p> <p>うんしゅうみかん</p> <p>現状</p> <p>①本島北部および中部地域で栽培されている。</p> <p>②日本一出荷の早い露地みかんとして、一定の需要がある。</p> <p>③生産者の高齢化等により、担い手が減少している。</p> <p>振興方針</p> <p>①優良品種への転換および栽培管理技術の高位平準化、高品質果実生産体系の導入により生産性および品質の向上を図る。</p> <p>②担い手育成、新規就農を推進する。</p> <p>③園地の整備や省力樹形の導入を推進し、作業の機械化および省力化を図る。また、農作業受委託体制の整備等による生産体制の合理化を図る。</p>

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画（案）	現計画
<p>●主に本島北部地域で栽培され、本県原産の香酸かんきつである。</p> <p>●果実に含まれる機能性成分が注目され、消費拡大に向けた取り組みを行っているものの、需要に対し生産が応えきれていない。</p> <p>●加工用果実および生食用果実（青切用・フルーツ用）として幅広い用途がある。</p> <p>●一部園地で立ち枯れの発生が見られる。</p> <p>(エ) 天草</p> <p>●本島北部および中部地域で栽培されている。</p> <p>●年末贈答用としての需要がある。</p> <p>●生産者の高齢化等により、担い手が減少している。</p> <p>(オ) その他かんきつ（在来かんきつ、中晩生かんきつ、香酸かんきつ等）</p> <p>●本県の気候に適応した在来かんきつ（カーブチー、オートー、タロガヨ等）は、特有の風味や食味を持ち栽培が維持されている。</p> <p>●中晩成かんきつは、本県に適した品目の導入等が進められている。</p> <p>●香酸かんきつは、レモン等が導入されている。</p> <p>(2) 振興方針</p> <p>●生産性や品質の向上を図るため、優良品種等への転換の推進および栽培技術指導や病害虫防除技術指導、防除薬の見直し等を実施する。</p> <p>●優良種苗の供給体制の構築を図り、園地条件に適した台木苗等の供給を推進する。</p> <p>●シーカワーサーの立ち枯れ症状は、複合する要因に応じた対策を実施する。</p> <p>●「あまSUN」のブランド力強化や消費拡大を図り、出荷規格の遵守・選果選別の徹底および共選共販体制を強化する。</p> <p>●防風林の整備、スプリンクラー等塩害防止施設の導入、防風・防鳥施設等の導入を推進する。</p> <p>●生産性の向上を図るため、園地の整備や省力樹形の導入および作業の機械化を推進する。</p> <p>●担い手育成、新規就農を推進する。</p> <p>●生産基盤の有効活用および意欲ある担い手の規模拡大等を支援するため、離農者が所有する園地の継承や園地集積を促進する。</p> <p>●生産体制の合理化を図るため、農作業受委託体制の整備等を推進する。</p> <p>●非破壊選果機等を活用した品質管理の徹底、選果データに基づいた生産者への個別指導等により高品質果実の生産・出荷に努める。</p>	<p>④防風林の整備、スプリンクラー等塩害防止施設の導入、防風・防鳥施設等の導入を推進し、安定生産および品質の向上を図る。</p> <p>⑤非破壊選果機を活用した品質管理の徹底、選果データに基づいた生産者への個別指導等により高品質果実の生産・出荷に努める。</p> <p>⑥県外市場出荷については、船舶輸送等による流通コストの低減を図る。</p> <p>⑦高齢者や離農者が所有する園地について、意欲ある担い手への斡旋や第三者継承を支援する等、生産基盤の有効活用や園地集積・集約化を促進する。</p> <p><u>タンカン</u></p> <p><u>現状</u></p> <p>①本島北部地域で栽培され、本県晚生かんきつ類の主要品目となっている。</p> <p>②香りが良く、食味も優れていることから安定した需要がある。</p> <p>③生産者の高齢化等により、担い手が減少している。</p> <p><u>振興方針</u></p> <p>①優良品種や園地条件に適した台木への転換および栽培管理技術の高位平準化を推進し、安定生産および品質の向上を図る。</p> <p>②担い手育成、新規就農を推進する。</p> <p>③園地の整備や省力樹形の導入を推進し、作業の機械化および省力化を図る。また、農作業受委託体制の整備等による生産体制の合理化を図る。</p> <p>④防風林の整備、スプリンクラー等塩害防止施設および防風・防虫防鳥施設等の導入を推進し、安定生産および品質の向上を図る。</p> <p>⑤非破壊選果機を活用した品質管理の徹底、選果データに基づいた生産者への個別指導等による高品質果実の生産・出荷に努める。</p> <p>⑥選果施設および予冷・貯蔵施設を活用した計画出荷の実施と船舶輸送等による流通の低コスト化を図る。</p> <p>⑦高齢者や離農者が所有する園地について、意欲ある担い手への斡旋や第三者継承を支援する等、生産基盤の有効活用や園地集積・集約化を促進する。</p> <p><u>シーカワーサー</u></p> <p><u>現状</u></p> <p>①主に本島北部地域で栽培され、本県原産の香酸かんきつである。</p> <p>②果実に含まれる機能性成分が注目され、栽培面積および生産量が急激に増加したため、消費拡大に向けた取り組みが行われている。</p>

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画(案)	現計画
<p>●選果施設および予冷・貯蔵施設を活用した鮮度保持やコストを考慮した輸送体系の高度化を図り、計画出荷体制の確立を推進する。</p> <p>●需要に応じた加工用および生食用果実の生産出荷を推進する。</p> <p>●風味や機能性成分等の特徴を活かした加工品開発を進めるとともに消費拡大を図るため、加工産業や観光産業との連携を推進する。</p> <p>●搾汁残渣等の高度利用を図るため、試験研究機関や加工産業等との連携を推進する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>OKGI</p> <p>かんきつ類面積 : 564ha→565ha</p> <p>かんきつ類生産量 : 3,850t→7,087t</p> <p>うちシークヮーサー生産量 : 3,293t→5,300t</p> <p>" 単収 : 0.78t/10a→1.25t/10a</p> <p>うち生食用(出荷量) : 118t→528t</p> <p>加工用(出荷量) : 2,888t (R5) →4,751t (R12)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>OKPI</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優良種苗への改植・新植および省力化樹形等の導入地区数 : 年間1地区以上 ・省力化に向けた機械導入台数 : 0台→3台 ・栽培技術指導の実施地区数 : 年間7地区以上 </div>	<p>③加工用果実および生食用果実(青切用・フルーツ用)として幅広い用途がある。</p> <p>④一部園地で立ち枯れの発生が見られる。</p> <p><u>振興方針</u></p> <p>①優良品種や園地条件に適した台木への転換および栽培管理技術の向上、病害虫防除の徹底により、安定生産および品質の向上を図る。</p> <p>②担い手育成、新規就農を推進する。</p> <p>③園地の整備や省力樹形の導入を推進し、作業の機械化および省力化を図る。また、農作業受委託体制の整備等による生産体制の合理化を図る。</p> <p>④防風林の整備、スプリンクラー等塩害防止施設および防風・防鳥施設等の導入を推進し、安定生産および品質の向上を図る。</p> <p>⑤需要に応じた加工用および生食用果実の生産出荷を推進する。</p> <p>⑥選果施設および予冷・貯蔵施設を活用した生食用高品質果実の計画出荷体制の確立を図る。</p> <p>⑦加工産業や観光産業との連携を推進し、風味や機能性成分等の特長を活かした加工品開発や消費宣伝による、販路開拓・消費拡大を図る。</p> <p>⑧搾汁残渣等の高度利用を推進する。</p> <p>⑨立ち枯れ症状の原因究明と対策を実施する。</p> <p><u>天草</u></p> <p><u>現状</u></p> <p>①本島北部および中部地域で栽培されている。</p> <p>②年末贈答用としての認知度が高まっていることから生産拡大が期待できる。</p> <p>③生産者の高齢化等により、担い手が減少している。</p> <p><u>振興方針</u></p> <p>①栽培技術の高位平準化を推進し、外観および品質の向上、生産量増加を図る。</p> <p>②担い手育成、新規就農を推進する。</p> <p>③防風林の整備、スプリンクラー等塩害防止施設および防風・防虫防鳥施設等の導入を推進し、安定生産および品質の向上を図る。病害虫防除作業の省力化を図る。</p> <p>④出荷規格の遵守・選果選別の徹底および共選共販体制の強化による高品質果実の出荷に努め、「あまSUN」のブランド力を強化し、消費拡大を図る。</p>
	10

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画（案）	現計画
<p>びわ</p> <p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本島中部地域を中心に栽培されている。 ●本県の温暖な気象条件を活かして、露地びわとして栽培されており、他産地に先駆け早期出荷が行われている。 <p>振興方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生産性や品質の向上を図るため、優良品種等の導入・普及に取り組み、栽培技術指導および病害虫防除技術指導を実施する ●低樹高栽培により作業効率を高め、品質向上を図る。 ●防風林の整備、平張施設等の導入を推進し安定生産と品質向上を図る。 ●出荷規格の遵守・選果選別の徹底を推進するとともに、共販体制を推進する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>OKGI</p> <p>面積 : 1ha→1ha</p> <p>生産量 : 3t→8t</p> <p>単収 : 0.25t/10a→0.83t/10a</p> </div>	<p>⑤園地の整備、省力樹形の導入を推進し、作業の機械化および省力化を図る。 また、農作業受委託体制の整備等による生産体制の合理化を図る。</p> <p>⑥高齢者や離農者が所有する園地について、意欲ある担い手への斡旋や第三者継承を支援する等、生産基盤の有効活用や園地集積・集約化を促進する。</p> <p>その他かんきつ（在来かんきつ、香酸かんきつ、中晩生かんきつ等）</p> <p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ①消費者ニーズの多様化による需要の拡大が期待できる。 ②特有の風味や食味を活かした幅広い用途が見込まれる。 <p>振興方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ①品目・品種の組み合わせによる農家経営の安定化を図る。 ②消費者ニーズに対応した優良品目を導入し、需要動向を見極め生産出荷を推進する。 ③栽培技術の開発により、生産量の増加を図る。 ④防風林の整備、スプリンクラー等塩害防止施設および防風・防鳥施設等の導入を推進し、安定生産および品質の向上を図る。 ⑤加工産業や観光産業との連携を推進し、風味等を活かした加工品開発や消費宣伝による、販路開拓・消費拡大を図る。 <p style="color: red;">(政令指定品目かつ拠点産地認定品目であるため、先に記載する)</p>

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画(案)	現計画
<p>OKPI 拠点産地指導地区数：年間1地区以上</p>	
<p>マンゴー 現状 ●本県を代表する果樹として面積、生産量ともに増加傾向であり、本県果樹の結果樹面積の<u>22.6%</u>、果樹産出額の<u>42.6%（令和4年度）</u>を占める。 ●国内の生産量の<u>51%（令和4年）</u>を占め、全国一位の産地である。 ●贈答用、観光土産用等、高級差別化商品として、県内外での需要が高い。</p> <p>振興方針 ●優良品種の開発および種苗<u>供給</u>体制の構築を図る。 ●品種の組み合わせ等により、出荷期間の拡大を図る。 ●防風林等の整備、栽培施設および環境制御設備等の導入を推進し、安定生産および品質の向上を図る。 ●<u>高品質果実の生産を推進するため、栽培技術指導および病害虫防除技術指導、非破壊選果機の選果データを活用した個別指導等を実施する。</u> ●食の安全・安心や環境に配慮した生産供給体制の構築を図るため、<u>環境保全型農業の取組を推進する。</u> ●施設の整備保守点検・補修等による長寿命化対策、計画的な改植、作業の省力化を推進し、<u>生産者の経営の安定化</u>を図る。 ●<u>共選共販体制を強化については、出荷規格の遵守、選果選別の徹底および非破壊選果機の導入による厳選出荷を通じて高品質果実出荷規格による有利販売を推進する。</u> ●鮮度保持やコストを考慮した輸送体系の高度化に取り組む。 ●販路開拓・消費拡大を図るために、加工産業や観光産業との連携を推進する。</p> <p>OKGI 面積：269ha→300ha 生産量：1,919t→2,880t 単収：0.71t/10a→0.96t/10a</p> <p>OKPI 栽培施設導入および補強・改修地区数：計画期間の累積7地区 環境にやさしい栽培（天敵導入）地区数：年間10地区以上 栽培技術指導の実施地区数：年間10地区以上</p>	<p>マンゴー 現状 ①本県を代表する果樹として面積、生産量ともに増加傾向であり、本県果樹の結果樹面積の<u>24.5%</u>、果樹産出額の<u>42%（H30）</u>を占める。 ②国内の生産量の<u>55%（H29）</u>を占め、全国一位の産地である。 ③贈答用、観光土産用等、高級差別化商品として、県内外での需要が高い。</p> <p>振興方針 ①優良品種の開発および種苗<u>生産</u>体制の構築を図る。 ②防風林等の整備、栽培施設および環境制御設備等の導入を推進し、安定生産および品質の向上を図る。 ③病害虫の適期防除および<u>栽培技術の高位平準化に取り組み</u>、高品質果実の生産を行う。 ④品種の組み合わせ等により、出荷期間の拡大を図る。 ⑤施設の整備保守点検・補修等による長寿命化対策、計画的な改植、作業の省力化を推進し、<u>農家</u>経営の安定化を図る。 ⑥出荷規格の遵守、選果選別の徹底を推進<u>するとともに</u>、共選共販体制を推進する。 ⑦非破壊選果機の導入による厳選出荷を通じてブランド化を図るとともに、選果データを活かした個別指導等により、高品質果実の生産を推進する。 ⑧鮮度保持やコストを考慮した輸送体系の高度化に取り組むとともに、消費宣伝を強化し、需要の拡大を図る。 ⑨加工産業や観光産業との連携を推進し、加工品開発および消費宣伝による販路開拓・消費拡大を図る。</p>

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画(案)	現計画
<p>パッショングルーツ</p> <p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ●電照栽培の普及により、出荷期間が拡大している。 ●生食用および加工用果実として幅広い用途があり、生産拡大が期待できる。 ●施設栽培の普及により、果実品質の向上が図られている。 <p>振興方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ●優良品種の開発および種苗供給体制の構築を図る。 ●担い手育成、新規就農を支援する。 ●防風林等の整備、栽培施設および環境制御設備等の導入を推進し、安定生産と品質向上を図る。 ●生産性や品質の向上を図るため、栽培技術指導および病害虫防除技術指導を実施する。 ●受粉昆虫の利用等により栽培面積の拡大を図り、産地形成を推進する。 ●共選共販体制の構築を図り、出荷規格の遵守、選果選別を徹底する。 ●加工産業や観光産業等との連携により、果実の特徴を活かした消費PRや加工品開発を推進し、販路開拓・消費拡大を図る。 ●6次産業化を支援し、生産者の経営の安定化を図る。 <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px;"> <p>OKGI</p> <p>面積 : 10ha→15ha 生産量 : 88t→214t 単収 : 0.88t/10a→1.42t/10a</p> </div> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px;"> <p>OKPI</p> <p>栽培施設導入および補強・改修地区数 : 計画期間の累計 3 地区 栽培技術指導の実施地区数 : 年間 2 地区以上</p> </div>	<p>パッショングルーツ</p> <p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ①電照栽培の普及により、出荷期間が拡大している。 ②生食用および加工用果実として幅広い用途があり、生産拡大が期待できる。 ③施設栽培の普及により、果実品質の向上が図られている。 <p>振興方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ①優良品種の開発および種苗生産体制の構築を図る。 ②担い手育成、新規就農を支援する。 ③防風林等の整備、栽培施設および環境制御設備等の導入を推進し、安定生産と品質向上を図る。 ④病害虫の適期防除および栽培技術の高位平準化に取り組み、高品質果実の生産を行う。 <p>(追加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑤他品目との組み合わせおよび受粉昆虫の利用等により、栽培面積の拡大を図り、産地形成を推進する。 ⑥加工産業や観光産業等との連携により、果実の特徴を活かした消費宣伝や加工品開発を推進し、販路開拓・消費拡大を図る。 ⑦6次産業化を支援し、農家経営の安定化を図る。
<p>フルーツパパイア</p> <p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ●フルーツ用品種は、食味が優れた国産果実として需要があるが、栽培面積、生産量は減少傾向にあり、また、野菜用途でも活用されている。 ●優良品種の導入、施設栽培技術の普及により高品質安定生産が見込まれる。 <p>振興方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ●施設の利用による栽培・生産体制の構築を図る。 	<p>フルーツパパイヤ</p> <p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ①フルーツ用品種は、食味が優れた国産果実として需要があるが連作障害等により栽培面積、生産量は減少傾向にある。 ②優良品種の導入、施設化の推進と栽培技術の普及により高品質安定生産が見込まれ、生産の拡大が期待できる。 <p>振興方針</p>

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画(案)	現計画
<ul style="list-style-type: none"> ●安定生産を図るため、栽培技術指導および病害虫防除技術指導を実施する。 ●栽培面積の維持および生産者の育成を図る。 ●防風林の整備、栽培施設の導入、優良品種の栽培を推進し、安定生産および品質の向上を図る。 ●出荷規格の遵守および共選共販体制を推進する。 ●果実の特性を活かした消費PRを行い、新たな需要の創出を図る。 <p>OKGI 面積 : 2ha→2ha 生産量 : 19t→36t 単収 : 1.27t/10a→1.79t/10a</p> <p>OKPI 拠点産地指導地区数 : 年間1地区以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①優良品種の導入および生産体制の構築を図る。 ②防風林の整備、栽培施設および環境制御設備等の導入、優良品種の栽培を推進し、安定生産および品質の向上を図る。 ③病害虫の適期防除および栽培技術の普及に取り組み、高品質果実の生産を行う。 ④出荷規格の遵守および共選共販体制を推進する。 ⑤栽培面積の拡大および生産者の育成により産地形成を図る。 ⑥果実の特性を活かした消費宣伝を行い、新たな需要の創出を図る。
<p>アセローラ</p> <p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ●主に北部および八重山地域で生産されているが、生産量は減少傾向にある。 ●ジュース等の加工用原料として、加工販売を中心とした生産の取組が定着している。 <p>振興方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ●優良品種の導入および普及を図る。 ●安定生産を図るため、栽培技術指導および病害虫防除技術指導を実施する。 ●生産性の向上、栽培面積の拡大および生産者の育成により産地形成を図る。 ●防風林の整備、防風・防鳥施設等の導入による、安定生産および品質の向上を図る。 ●加工原料用果実において鮮度保持技術の利用により、品質向上を推進する。 ●加工産業や観光産業等との連携により、果実の特徴を活かした消費PRや加工品開発を推進し、需要拡大を図る。 ●6次産業化を支援し、生産者の経営の安定化を図る。 <p>OKGI 面積 : 5ha→6ha 生産量 : 4.5t→17t 単収 : 0.09t/10a→0.28t/10a</p> <p>OKPI 優良品種の導入地区数 : 計画期間の累計3地区</p>	<p>アセローラ</p> <p>現状</p> <p>(追加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ジュース等の加工用原料として、加工販売を中心とした生産の取組が定着している。 <p>振興方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ①優良品種の導入および普及を図る。 ②防風林の整備、防風・防鳥施設等の導入を推進し、安定生産および品質の向上を図る。 ③病害虫の適期防除および栽培技術の普及に取り組み、安定生産および省力化栽培を推進する。 ④鮮度保持技術の開発等に取り組み、生食用の出荷による用途の拡大を図る。 ⑤栽培面積の拡大および生産者の育成により産地形成を図る。 ⑥加工産業や観光産業等との連携により、果実の特徴を活かした消費宣伝や加工品開発を推進し、需要拡大を図る。 ⑦6次産業化を支援し、農家経営の安定化を図る。

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画（案）	現計画
<p>アテモヤ</p> <p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ●食味が良好で、国内における果実<u>需要</u>の多様化に対応する高級果実として、生産拡大が期待できる。 ●熱帯果樹の出荷の少ない冬春期に出荷可能な果実として需要がある。 <p>振興方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ●優良品種の種苗<u>供給</u>体制を整備する。 ●<u>安定生産を図るため、栽培技術指導および病害虫防除技術指導を実施する。</u> ●<u>生産者の育成や栽培面積の拡大による産地育成を推進する。</u> ●防風林の整備、栽培施設等の導入を推進し、安定生産および品質の向上を図る。 ●観光産業等との連携により、果実の特徴を活かした消費<u>P Rに取組み、認知度の向上や販路開拓・消費拡大を図る。</u> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>OKGI</p> <p>面積 : 7ha→8ha 生産量 : 18t→77t 単収 : 0.25t/10a→0.96t/10a</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>OKPI</p> <p>拠点産地指導地区数 : 年間1地区以上</p> </div>	<p>アテモヤ</p> <p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ①食味が良好で、国内における果実<u>消費</u>の多様化に対応する高級果実として、生産拡大が期待できる。 ②<u>本県の熱帯果樹の出荷の少ない冬春期に出荷可能な果実として需要がある。</u> <p>振興方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ①優良品種の種苗<u>生産</u>体制を整備する。 ②防風林の整備、栽培施設等の導入を推進し、安定生産および品質の向上を図る。 ③病害虫の適期防除および栽培技術の高位平準化、適期収穫等により高品質果実の生産を図る。 ④<u>他品目との組み合わせによる栽培面積の拡大および生産者の育成による産地育成を推進する。</u> ⑤<u>加工産業や観光産業等との連携により、果実の特徴を活かした消費宣伝や加工品開発を推進し、販路開拓・消費拡大を図る。</u>
<p><u>ゴレンシ（スターフルーツ）</u></p> <p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本島南部地域を中心に栽培されている。 ●熱帯果樹の出荷の少ない冬春期に出荷可能な果実として需要が見込まれる。 <p>振興方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ●<u>安定生産を図るため、優良品種の普及および栽培技術指導や病害虫防除技術指導を実施する。</u> ●防風林の整備、栽培施設等の導入を推進し、安定生産および品質の向上を図る。 	<p>(拠点産地認定品目であるため、先に記載する)</p>

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画（案）	現計画
<ul style="list-style-type: none"> ●出荷規格の遵守・選果選別の徹底を推進するとともに、共選共販体制を整備し、品質の安定化を図る。 ●加工産業や観光産業等との連携により、果実の特徴を活かした消費PRや加工品開発を推進し、販路開拓・消費拡大を図る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>OKGI 面積 : 2ha→3ha 生産量 : 21t→81t 単収 : 1.05t/10a→2.70t/10a</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>OKPI 拠点产地指導地区数 : 年間1地区以上</p> </div>	
<p>ピタヤ（ドラゴンフルーツ）</p> <p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県内各地域で様々な品種・系統が栽培され生産量が増加したが、近年は減少している。 ●県育成品種「インパクトルビー」が登録（令和3年）され、種苗の供給により普及を進めている。 ●生食用果実としてだけではなく、加工用果実としても幅広い用途がある。 <p>振興方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ●安定生産技術の開発および需要に対応できる優良品種の開発を推進する。 ●「インパクトルビー」の許諾契約に基づき優良種苗の安定供給を図り、生産拡大を推進する。 ●生産性や品質の向上を図るため、栽培技術指導および病害虫防除技術指導を実施する。 ●担い手の育成や栽培面積の拡大による产地育成を推進する。 ●防風林の整備、栽培施設等の導入を推進し、安定生産および品質の向上を図る。 ●出荷規格および共選共販体制の構築を図る。 ●販路開拓・消費拡大を図るため、加工産業や観光産業等と連携し、果実の特徴を活かした加工品開発および消費PRを推進する。 ●果実の特性を活かした消費PRを行い、新たな需要の創出を図る。 	<p>ドラゴンフルーツ</p> <p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ①平成18年頃までに、各地で様々な品種・系統が栽培され、生産量が増加したが、近年は減少傾向である。 ②（追加） <p>②生食用果実としてだけではなく、加工用果実としても幅広い用途がある。</p> <p>振興方針</p> <p>（追加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ④優良品種の開発および種苗生産体制の構築を図る。 ②防風林の整備、栽培施設等の導入を推進し、安定生産および品質の向上を図る。 ③病害虫の適期防除および栽培技術の普及に取り組み、高品質果実の生産を行う。 ④出荷規格の遵守および共選共販体制を推進する。 ⑤果実の特性を活かした消費宣伝を行い、新たな需要の創出を図る。 ⑥他品目との組み合わせによる栽培面積の拡大で产地化を推進する。 <p>スターフルーツ</p> <p>現状</p>

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画（案）	現計画
<p>その他熱帯果樹（バナナ・レイシ・レンブ・グアバ・インドナツメ・アボカド等）</p> <p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小規模であるが様々な品目・品種等<u>が地域の特産果樹としての経済栽培されている。</u> ●消費者ニーズの多様化への対応、観光・リゾート産業との連携による新たな需要が見込まれる。 <p>振興方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ●優良品種・系統の選抜およびその普及を図る。 ●安定生産を図るため、栽培指導および病害虫防除指導に取り組む。 ●防風林等の導入を推進し、安定生産および品質の向上を図る。 ●果実の特性を活かした消費PRを行い、新たな需要の創出と消費拡大を図る。 ●品目・品種を組み合わせた栽培により経営の安定化を図る。 	<p>①本島南部地域を中心に栽培されている。 ②<u>本県の熱帯果樹の出荷の少ない冬春期に出荷可能な果実として需要が見込まれる。</u></p> <p>振興方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ①防風林の整備、栽培施設等の導入を推進し、安定生産および品質の向上を図る。 ②病害虫の適期防除および栽培技術、優良品種の普及に取り組み、高品質果実の生産を行う。 ③<u>収穫期調整技術の開発および普及を推進し、計画出荷を図る。</u> ④出荷規格の遵守・選果選別の徹底を推進するとともに、共選共販体制を整備し、品質の安定化を図る。 ⑤加工産業や観光産業等との連携により、果実の特徴を活かした消費<u>宣伝</u>や加工品開発を推進し、販路開拓・消費拡大を図る。 <p>その他熱帯果樹（バナナ・レイシ・レンブ・グアバ・インドナツメ・アボカド等）</p> <p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ①小規模であるが様々な品目・品種等<u>の経済栽培が取り組まれている。</u> ②消費者ニーズの多様化への対応、観光・リゾート産業との連携による新たな需要が見込まれる。 <p>振興方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ①優良品種および系統の選抜・普及を図る。 ②防風林等の導入を推進し、安定生産および品質の向上を図る。 ③<u>栽培技術の開発により、生産量の増加を図る。</u> ④果実の特性を活かした消費宣伝を行い、新たな需要の創出と消費拡大を図る。 ⑤品目・品種を組み合わせた栽培により経営の安定化を図る。 <p>びわ</p> <p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ①本島中部地域を中心に栽培されている。

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画（案）	現計画
	<p>②本県の温暖な気象条件を活かし、県外へ早期出荷が行われ、日本一出荷の早い露地びわとして一定の需要がある。</p> <p>振興方針 <u>(追加)</u></p> <p>①低樹高栽培により作業効率を高め、品質向上を図る。 ②防風林の整備、平張施設等の導入を推進し安定生産と品質向上を図る。 ③優良品種を主体とした品種構成とし、他品目との複合化品目として生産を推進する。 ④出荷規格の遵守・選果選別の徹底を推進するとともに、共販体制を推進する。</p>

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料 2)

新計画（案）								現計画										
区分 対象果樹 の種類	現状 ¹⁾				目標				対象果樹の種類	現状				目標				
	R4		R5		R12					H29		H30		R12				
	面積 ²⁾ (ha)	生産量 (t)	面積 (ha)	生産量 (t)	面積 (ha)	生産量 (t)	現状対比 (%)	面積 (ha)		面積 ha	生産量 t	面積 ha	生産量 t	面積 ha	生産量 t	面積 ha	生産量 t	
パインアップル	313	7,420	311	6,750	319	9,570	102	135	317	8,500	319	7,340	319	11,000	100	139		
かんきつ類	うんしゅうみかん	24	110	27	68	30	450	118	506	28	157	28	229	30	513	108	266	
	タンカン	93	459	93	239	100	1,080	108	309	94	1,383	93	870	100	1,300	107	115	
	シークワーサー	423	3,580	424	3,006	424	5,300	100	161	363	3,398	362	3,289	400	5,300	110	159	
	天草	8	33	8	47	10	131	125	329	9	98	9	64	15	195	172	242	
	その他 ³⁾	12	99	13	58	20	126	160	160	12	122	12	114	20	267	167	227	
	小計	561	4,282	566	3,417	565	7,087	100	184	505	5,157	503	4,565	565	7,575	112	156	
熱帶果樹類	びわ	1	3	1	2	1	8	100	333	254	2,207	265	1,793	300	3,750	116	188	
	マンゴー	269	1,796	268	2,041	300	2,880	112	150	13	127	11	128	24	360	206	283	
	パッションフルーツ	9	85	11	91	15	214	150	243	3	87	2	49	3	68	119	100	
	フルーツパパイヤ	1	21	2	17	2	36	133	189	7	34	5	27	6	78	100	256	
	アセローラ	5	3	5	6	6	17	120	371	11	42	13	19	15	120	126	394	
	アテモヤ	7	20	7	15	8	77	114	439	6	106	4	63	15	270	315	321	
	ゴレンシ(スターフルーツ)	1	16	3	26	6	100	171	605	3	26	3	21	5	70	174	295	
	ピタヤ(ドラゴンフルーツ)	3	17	4	16	3	81	150	386	10	141	10	102	30	306	306	252	
	その他熱帶果樹 ⁴⁾	12	102	10	98	30	273	273	273	306	2,770	313	2,201	398	5,022	129	202	
	小計	307	2,060	310	2,310	398	3,677	129	168	びわ	1	5	1	7	1	10	140	172
	合計	1,182	13,765	1,188	12,479	1,283	20,342	108	155	合計	1,129	16,432	1,135	14,113	1,283	23,607	113	155

注 1) 現状の数値は令和 4 年度と 5 年度を平均する。

注 2) 面積は結果樹面積である。

注 3) 上記以外のかんきつ品目。

注 4) バナナ、レイシ、レンブ、グアバ、インドナツメ、アボカド等が含まれる。

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画（案）				現計画			
<p>3 自然的経済的条件に応ずる近代的な果樹園経営の指標 (1) ①栽培する上での気象条件・注意事項</p>				<p>3 自然的経済的条件に応ずる近代的な果樹園経営の指標 (1) 栽培に適する自然的条件</p>			
対象果樹の種類	品種等	気温条件	植栽時における注意事項	対象果樹の種類	品種等	気温条件	気象被害等を防ぐための基準
パインアップル	N67-10、ソフトタッチ、ボゴール、ゴールドバーレル、ジュリオスター、沖農P17、沖農P19	20°C以上	排水不良や中性～アルカリ性の土壤での栽培は避ける。 果柄の折損や株の倒伏を防ぐため風当たりの強い園地での植栽は避ける。	パインアップル	N67-10、ソフトタッチ、ボゴール、ゴールドバーレル、ジュリオスター、沖農P17、沖農P19	20°C以上	排水不良や中性～アルカリ性の土壤での栽培は避ける。 果柄の折損や株の倒伏を防ぐため風当たりの強い園地での植栽は避ける。
うんしゅうみかん	興津早生、日南1号	15°C以上	排水不良や中性～アルカリ性の土壤での栽培は避ける。ただし、シークワーサー台木の株は土壤pHの適応性が比較的高い。 枝折れや傷害果、病害果の発生を防ぐため、風当たりの強い園地での植栽は避ける。	うんしゅうみかん	興津早生、日南1号	15°C以上	排水不良や中性～アルカリ性の土壤での栽培は避ける。ただし、シークワーサー台木の株は土壤pHの適応性が比較的高い。 枝折れや傷害果、病害果の発生を防ぐため、風当たりの強い園地での植栽は避ける。
タンカン	名護紅早生、垂水1号	17.5°C以上		タンカン	名護紅早生、垂水1号	17.5°C以上	
シークワーサー	クガニー系統、仲本シードレス	20°C以上		シークワーサー	カゴニー系統、仲本シードレス	20°C以上	
中晩成かんきつ	天草、津之輝	18°C以上		中晩成かんきつ	天草、津之輝	18°C以上	
在来かんきつ	カーブチー、オートー、タロガヨ	20°C以上		在来かんきつ	カーブチー、オートー、タロガヨ	20°C以上	
香酸かんきつ	レモン、ライム	15.5°C以上		香酸かんきつ	レモン、ライム	15.5°C以上	
きんかん	ニンポウ、ぶちまる	16°C以上		きんかん	ニンポウ、ぶちまる	16°C以上	
びわ	長崎早生、なつたより	15°C以上		びわ	長崎早生、なつたより	15°C以上	
マンゴー	アーウィン、キーツ、リベンス、バレンシアプライド	20°C以上		マンゴー	アーウィン、キーツ、リベンス、バレンシアプライド	20°C以上	
パッションフルーツ	紫系統、交雑種	20°C以上		パッションフルーツ	紫系統、交雑種	20°C以上	
フルーツパパイヤ	サンライズソロ、石垣珊瑚	20°C以上	フルーツパパイヤ	サンライズソロ、石垣珊瑚	20°C以上		
アセローラ	甘味系、レッドジヤンボ	20°C以上	アセローラ	甘味系、レッドジヤンボ	20°C以上		
アテモヤ	ジェフナー、アフリカンプライド	20°C以上	アテモヤ	ジェフナー、アフリカンプライド	20°C以上		
ゴレンシ(スターフルーツ)	カーリー、B-10、HEW-1	20°C以上	ドラゴンフルーツ	赤肉系、白肉系、インパクトルビー	20°C以上		
ピタヤ(ドラゴンフルーツ)	赤肉系、白肉系、インパクトルビー	20°C以上	スターフルーツ	B-10、HEW-1、カーリー	20°C以上		
その他熱帯果樹 ¹⁾		20°C以上	その他熱帯果樹		20°C以上		
			びわ	長崎早生	15°C以上	排水不良や中性～アルカリ性の土壤での栽培は避ける。 果柄の折損や株の倒伏を防ぐため風当たりの強い園地での植栽は避ける。	

注1) 热帯果樹には、バナナ、レイシ、レンブ、グアバ、インドナツメ、アボカド等が含まれる

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料 2)

新計画（案）						現計画
(1) ①県内各地区の主な気象データ平年値						
(追加)						
地域	降水量 合計 (mm)	気温			日照時間 合計 (時)	観測地点
		平均 (°C)	日最高 (°C)	日最低 (°C)		
北部	2120.7	22.8	25.8	20.3	1738.8	名護
南部	2161.0	23.3	26.0	21.1	1727.1	那覇
宮古	2076.0	23.8	26.4	21.9	1743.9	宮古島
八重山	2095.5	24.5	27.2	22.4	1852.5	石垣島

※気象庁ホームページより。統計期間 1991～2020 年。

(2) 高温障害および対策技術						
品目	高温 障害	発生の原因	症状	対策技術の例		
パイン アップル	日焼け	果実肥大期の直射 日光による高温 (5～10月)	果皮やその下の 果肉組織の一部 が変色、変質、お よび裂果	・遮光ネットまたは果実被覆によ る遮光 ・ビニールの巻上げ等による施設 内温度の上昇抑制(ハウス栽培)		
かんき つ類	日焼け	果実肥大期～収穫 期の高温・少雨 (7～11月)	果皮やその下の 果肉組織が変色	・樹冠上部摘果等による発生リス クが高い果実の除去 ・灌水による水ストレスの緩和		
マンゴー	日焼け	果実肥大期の高温、 直射日光 (6～7月)	果皮やその下の 果肉組織が変色、 変質	・果実袋、遮光ネット等による遮光 ・施設内温度の上昇抑制 ・灌水による水ストレスの緩和		

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画（案）					現計画						
対象果樹の種類	品種等	傾斜度	成園 10aあたり		防除方式	対象果樹の種類	品種等	傾斜度	成園 10aあたり		防除方式
			生産量 (kg)	労働時間 (時間)					生産量 (kg)	労働時間 (時間)	
パインアップル (露地)	N67-10	平坦地～ 緩傾斜地	3,840	174	動力噴霧器	パインアップル (露地)	N67-10	平坦地～ 緩傾斜地	3,840	174	動力噴霧器
	ソフトタッチ		2,240								
	ボゴール		2,560								
	ゴールドバレル		4,480								
	ジュリオスター		3,840								
	沖農P17		3,840								
	沖農P19		3,840								
パインアップル (施設)	N67-10	平坦地～ 緩傾斜地	4,480	255	動力噴霧器	パインアップル (施設)	N67-10	平坦地～ 緩傾斜地	4,480	255	動力噴霧器
	ボゴール		3,200								
	ゴールドバレル		5,120								
	沖農P17		4,480								
	沖農P19		4,480								
うんしゅうみかん	興津早生、日南1号	平坦地～ 緩傾斜地	2,700	254	動力噴霧器 スピードスプロイー	うんしゅう	興津早生、日南1号	平坦地～ 緩傾斜地	2,700	254	動力噴霧器 スピードスプロイー
タンカン	名護紅早生、垂水1号		2,000	217							
シークワーサー	クガニー系統、仲本シードレス		2,400	209							
マンゴー ^(無加温)	アーヴィン、キーツ、 リベンス	平坦地	1,200	1304	動力噴霧器	マンゴー ^(無加温)	アーヴィン	平坦地	1,200	1304	動力噴霧器
マンゴー ^(加温)	アーヴィン		1,350	1368							
フルーツパパイヤ	サンライズソロ、 石垣珊瑚	平坦地	2,600	554	動力噴霧器	フルーツパパイヤ	サンライズソロ、 石垣珊瑚	平坦地	2,600	554	動力噴霧器

※パインアップルの成園 10aあたり生産量については、1回目収穫果。

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料 2)

新計画（案）									現計画		
果樹の種類	品種	作型	10aあたり				経営規模	地域	備考		
			栽培本数 (本)	労働時間 (h)	収量 (kg)	粗生産額 (円)					
パイン アップル ※1	N67-10 加工用	夏植え 4年2収	4000	311.5	6,920	553,600	149,584	2ha	北部	収量は、2回収穫の合計。 労働人数1人。 繁忙期雇用あり。	
パイン アップル ※1	N67-10 加工用	春植え 3年2収	4000	327.0	6,480	518,400	175,980	2ha	北部	収量は、2回収穫の合計。 労働人数1人。 繁忙期雇用あり。	
パイン アップル ※1	ソフトタッチ (生食用)	夏植え 4年2収	4000	471.0	4,200	4,200,000	1,901,819	2ha	八重山	収量は、2回収穫の合計。 労働人数2人。 繁忙期雇用あり。	
マンゴー ※1	アーウィン	無加温	40	1352.2	1,200	2,215,200	754,398	30a	本島全域	労働人数2人。	
マンゴー ※2	アーウィン	加温	39	1416.1	1,350	2,756,700	812,844	20a	本島全域	労働人数2人。 施設および加温機を8割補助で導入した場合。	

※沖縄県農業経営指標より。それぞれの発行年は、※1は平成31年、※2は令和2年。

(追加)

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画(案)	現計画
<p>4 土地改良その他生産基盤の整備に関する事項</p> <p>(1) 果樹園の土地基盤整備計画</p> <p>近年、気候変動の影響による異常気象や台風<u>強度の増大化や降水の極端化</u>など自然災害のリスクが高まっている。そのため、<u>土地基盤整備により</u>自然災害のリスク軽減および労働生産性の向上を図る。</p> <p>また、ドローンによる農薬散布等、情報通信技術（I C T）やロボット技術を農業分野に活用したスマート農業技術の開発<u>による</u>生産性の向上が期待される。これらスマート農業技術を含めた機械作業体系の導入を踏まえ、機械化に適した樹形の導入や園地の整備を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●<u>果樹園の土地基盤整備</u> ●<u>スマート農業、機械化に適した園地整備</u> ●<u>園地の集積・集約化</u> <p>5 果実の集荷、貯蔵又は販売の共同化、その他果実の流通の合理化に関する事項</p> <p>(1) 果実の流通の合理化の基本方針</p> <p>消費者の品質重視志向の高まりや生活様式の多様化、社会情勢の変化に伴い、流通ルートや販売形態も変化している。そこで、産地自らが、多様化するニーズに対応できる生産出荷および販売体制を構築するよう支援する。</p> <p>本県は本土市場から遠隔地にあり、流通コストおよび流通過程における品質保持等が課題となっている。</p> <p>また、近年卸売市場を経由する青果物の割合は減少傾向であるが、市場流通は物流機能のみならず価格形成機能等を有することから、今後も基幹的な流通経路の一つとして位置づけていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●<u>品目ごとの生産予測の精度を高め、産地と市場や流通関係者、消費者等との情報共有を密にすることで、信頼関係の強化を図る。</u> ●<u>流通コスト低減および出荷の効率化</u>のため、共同出荷等を促進する。 ●<u>集出荷施設や貯蔵施設等の計画的な整備を推進し、非破壊選果機等を活用した選果システムの構築を図り、高品質果実の販売を強化する。</u> ●<u>品目や流通形態に合った鮮度保持技術の開発・活用に努める。</u> ●<u>国内需要のみならず入域観光客および海外へ向けた効果的な販売戦略に取り組む。</u> 	<p>4 土地改良その他生産基盤の整備に関する事項</p> <p>(1) 果樹園の土地基盤整備計画</p> <p>近年、気候変動の影響による異常気象や台風の<u>大型化</u>など自然災害のリスクが高まっている。そのため、<u>耐候性栽培施設や防風施設、防風林、グリーンベルト等の整備、傾斜の緩和、農道や園内作業道の整備、鳥獣害対策施設、かん水施設および排水路等、生産基盤の整備を推進し、自然災害のリスク軽減および労働生産性の向上を図る。</u></p> <p>また、ドローンによる農薬散布等、情報通信技術（I C T）やロボット技術を農業分野に活用したスマート農業技術の開発<u>が進められており、生産性の向上が期待される。これらスマート農業技術を含めた機械作業体系の導入を踏まえ、機械化に適した樹形の導入や園地の整備を推進する。</u></p> <p>5 果実の集荷、貯蔵又は販売の共同化 その他果実の流通の合理化に関する事項</p> <p>(1) 果実の流通の合理化の基本方針</p> <p>消費者の生活様式や社会情勢の変化に伴い、<u>果実の</u>流通ルートや販売形態が変化している。このため、<u>拠点</u>産地形成の強化を図り、産地自らが、<u>消費者、量販店、市場等</u>のニーズを<u>的確に把握した上で、それに対応した</u>生産出荷および販売体制を構築し、産地と消費者や市場等との信頼関係の強化を図る。</p> <p>また、近年卸売市場を経由する青果物の割合は減少傾向であるが、市場流通は、物流機能のみならず価格形成機能等を有することから、今後も基幹的な流通経路の一つとして位置づけていく。</p> <p>本県は本土市場から遠隔地にあるため流通コストが高いことに加え、流通過程における品質保持等が課題となっている。</p> <p>流通コスト低減のため、引き続き共同出荷等を促進するとともに、集出荷施設・貯蔵施設等の計画的な整備を推進する。また、品目や流通形態に合った鮮度保持技術の開発・活用に努める。</p> <p>消費者の品質重視の志向が高まっていることから、非破壊選果機の整備等、選果施設の高度化により、高品質果実の販売を強化する。</p> <p>さらに、<u>おきなわブランドの確立</u>を図るため、<u>国内のみならずアジアを中心とした海外へ向けて効果的な販売戦略に取り組む。</u></p>
	24

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料 2)

新計画（案）										現計画										
対象果樹の種類	R5				R12				H30				R12							
	生産量(t)	出荷量			出荷量のうち輸出(t)	生産量(t)	出荷量			生産量	出荷量			生産量	出荷量					
		計(t)	生食(t)	加工(t)			計(t)	生食(t)	加工(t)		計	生食	加工		計	生食	加工			
パインアップル	6,750	6,550	4,690	1,860	1	9,570	9,283	6,583	2,700	1.4	7,340	7,160	4,780	2,380	5	11,000	10,730	6,730	4,000	89
シークワーサー	3,006	3,006	118	2,888	-	5,300	5,279	528	4,751	44	3,289	3,276	78	3,197	-	5,300	5,279	528	4,751	44
マンゴー	2,025	2,025	1,922	103	ニ	2,880	2,880	2,735	145	ニ										

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画（案）	現計画
<p>(3) 果実の集出荷体制および施設の整備方針</p> <p>ア 集出荷体制および施設の整備方針</p> <p>集出荷体制と販売体制の一元化が進められているものの、地域<u>や品目</u>によっては共選・共販率が低い状況である。</p> <p>そのため、品質の揃った果実を計画的かつ安定的に供給するために、生産者の共選・共販に対する理解を充分に得た対策を図り生産出荷の組織化を推進する。</p> <p>●<u>生産者</u>および出荷団体等における検査体制の強化により、高品質果実の出荷に努める。</p> <p>●出荷物へのクレームが発生した場合には、流通ルートに関わる関係機関との情報交換を密接に行い迅速に対処する。</p> <p>●<u>流通過程において問題が発生した場合は、発生要因を把握し、生産者への指導を強化する等、クレームの発生防止に努める。</u></p> <p>●<u>マンゴーについては、非破壊選果施設等の整備により、高品質果実の高単価販売の取組が開始されていることから、未整備地域においても整備を推進する。</u></p> <p>●かんきつ類については、広域選果場による<u>共選・共販体制を強化</u>する。</p> <p>●<u>パインアップルについては、生食用果実の高品質化と共同出荷体制を強化するため、非破壊選果機の整備を推進する。</u></p> <p>●<u>パッションフルーツについては、生産量の増加に対応した選果施設および共選・共販体制の整備を推進する。</u></p> <p>●<u>その他果樹類については、安定生産および販売の組織化を推進し、出荷規格の策定、選果選別の徹底を図る。</u></p>	<p>(3) 果実の集出荷体制および施設の整備方針</p> <p>ア 集出荷体制および施設の整備方針</p> <p><u>集出荷体制と販売体制の一元化が進められているものの、地域によっては、共選・共販率が低く、市場ニーズへの対応が充分になされていない状況がある。</u></p> <p><u>そのため、市場ニーズに対応し、品質の揃った果実を計画的かつ安定的に供給するために、生産者の共選・共販に対する理解を充分に得た対策を図り生産出荷の組織化を推進する。</u></p> <p><u>マンゴーについては、非破壊選果施設等の整備が進められていることから、選果データを活用した生産指導体制の構築と強化を図り、高品質果実の安定生産に努める。また、未整備地域においても、今後非破壊選果施設等の整備を推進する。</u></p> <p><u>かんきつ類については、広域選果場による<u>広域的な</u>選果出荷体制の整備を引き続き推進する。</u></p> <p><u>パインアップルについては、生食用果実の高品質化と共同出荷体制を強化するため、非破壊選果機の整備を推進する。</u></p> <p><u>その他熱帯果樹類については、一部産地を除いて産地規模が小さく、全県的に分散しているため、主産地を中心とした安定生産および販売の組織化を推進し、出荷規格の改善、選果選別の徹底を図り、おきなわブランドを確立する。</u></p>

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画(案)				現計画			
対象果樹の種類	選別項目	令和6年					
		所在地	施設数 (ヶ所)	年間処理量 (t)			
パインアップル(加工)	重量、果実サイズ	東村	1	1,511	イ 選果施設の整備	イ 選果施設の整備	平成30年度
	重量、果実サイズ、糖度(光線式)			273			
	重量	石垣市	1	682			
	重量、糖度、酸度、果実障害(光線式)、	石垣市	1	579			
	重量、糖度、酸度、果実障害(光線式)	竹富町	1	51			
	重量、糖度、酸度、果実障害(光線式)	東村	1	30			
	重量、糖度、酸度、熟度(光線式)	東村	1	15			
タンカン	重量、	名護市	1	281	シーキワーサー(生果)	重量、果実サイズ	1
うんしゅうみかん	糖度・酸度(光線式)、			66			
天草	果皮色(カメラ式)			4			
(その他)大紅みかん	果実サイズ			8			
シーキワーサー(青切)	重量、果実サイズ	名護市	1	19			
(その他)レモン	果実サイズ			7			
(その他)カーブチー	果実サイズ			44			
天草	果実サイズ	沖縄市	1	40	タンカン	重量、糖度・酸度(光線式)、果皮色(カメラ式)	1
マンゴー	重量、果実サイズ	名護市	1	65			
	重量、糖度(光線式、別途手動)	沖縄市	1	100			
	重量、果実サイズ、糖度(光線式)	豊見城市	1	278			
	重量、果実サイズ、糖度(光線式)	宮古島市	1	15			
	重量	石垣市	1	8.5			
パッションフルーツ	重量、果皮色(手選別)	糸満市	1	22	うんしゅうみかん	重量	1
合計			15	4,098			
※沖縄県園芸振興課の調査による。							

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画（案）	現計画
<p>(4) 出荷規格の改善等の方針</p> <p>●マンゴー、パインアップル等の主要果実については、出荷作業の効率化、省力化を図りつつ消費者および市場のニーズ<u>に対応した</u>出荷規格の見直しを検討する。</p> <p>●出荷規格の定まってない品目について<u>は</u>、出荷量の増大にあわせて規格の設定を行う。</p>	<p>(4) 出荷規格の改善等の方針</p> <p>マンゴー、パインアップル等の主要果実については、<u>消費者および市場のニーズを踏まえつつ</u>、出荷作業の効率化、省力化を図るため、出荷規格の見直しを検討する。出荷規格の定まってない品目についても出荷量の増大にあわせて規格の設定を行う。</p> <p>また、生産農家および出荷団体等における検査体制の強化により、高品質果実の出荷に努める。出荷物へのクレーム処理については、関係機関と市場との情報交換を密接に行い、迅速に対処するとともに、発生要因を把握し、生産者への栽培および出荷方法の指導を強化する等、クレームの発生防止に努める。</p> <p>(p25 (3) 果実の集出荷体制及び施設の整備方針へ移動。)</p>
<p>6 果実加工の合理化に関する事項</p> <p>(1) 果実加工に関する基本的方針</p> <p>●加工原料用果実については、栽培管理技術の開発や作業受委託体制の整備等により、<u>生産量および品質の安定化</u>を図る。</p> <p>●加工施設<u>および加工技術</u>の高度化による生産性の向上を図る。</p> <p>●生産者、加工業者、研究機関等の連携を強化し、機能性成分の調査や評価により、付加価値を高めた加工製品の開発に繋げる。</p> <p>●新たな<u>消費ニーズ</u>に対応した加工製品の開発や、消費<u>P R</u>の強化により販路の開拓、消費拡大を図る。</p>	<p>6 果実加工の合理化に関する事項</p> <p>(1) 果実加工に関する基本的方針</p> <p>加工原料用果実については、栽培管理技術の開発や作業受委託体制の整備等により、<u>安定生産、供給</u>の確保、作業の省力化、生産コストの低減および品質の向上を図る。</p> <p>加工製品については、<u>カットフルーツや冷凍フルーツ、ドライフルーツなど</u>新たな市場のニーズに対応した<u>品種の開発・普及</u>や、消費宣伝の強化により販路の開拓・消費拡大を図る。</p> <p>また、果実の機能性成分の調査や評価により、付加価値を高めた加工製品の開発や県産果実の需要拡大に繋げる。</p> <p>加工施設については、施設の高度化による生産性の向上を図るとともに、生産者、地域の加工グループ、加工業者、研究機関等の連携を強化し、新製品の開発を推進する。</p>
<p>7 広域濃密生産団地形成に関する方針</p> <p>(1) 広域濃密生産団地形成に関する基本的方針</p> <p>広域濃密生産団地の形成にあたっては、自然的立地条件および経済的条件を考慮し、果実の生産から集出荷まで計画的かつ効率的に行われるよう合理的に配置させた集出荷施設を中心として、対象果樹の安定生産を図る。</p> <p>また、流通の合理化を推進するため、園地の基盤整備や利用集積、労働力の広域的調整確保、集出荷体制の整備等、生産から販売にいたるまでの体制を整備し、果樹農業の近代化を図ることを基本とする。</p> <p>この方針にそって、濃密生産団地の形成を図り、高品質果実の生産に対応できるよう産地整備を推進する。</p>	<p>7 広域濃密生産団地形成に関する方針</p> <p>(1) 広域濃密生産団地形成に関する基本的方針</p> <p>広域濃密生産団地の形成にあたっては、自然的立地条件および経済的条件を考慮し、果実の生産から集出荷まで計画的かつ効率的に行われるよう合理的に配置させた集出荷施設を中心として、対象果樹の安定生産を図る。</p> <p>また、流通の合理化を推進するため、園地の基盤整備や利用集積、労働力の広域的調整確保、集出荷体制の整備等、生産から販売にいたるまでの体制を整備し、果樹農業の近代化を図ることを基本とする。</p> <p>この<u>基本</u>方針にそって、濃密生産団地の形成を図り、高品質果実の生産に対応できるよう産地整備を推進する。</p>

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料 2)

新計画（案）			現計画		
対象果樹の種類	団地名	関係市町村			
パインアップル	北部	国頭村	大宜味村	東村	
		今帰仁村	本部町	名護市	
		宜野座村	金武町	恩納村	
	八重山	石垣市	竹富町		
かんきつ類	北部	国頭村	大宜味村	東村	
		今帰仁村	本部町	名護市	
	中部	うるま市	沖縄市		
マンゴー	北部	国頭村	大宜味村	今帰仁村	
		名護市	宜野座村	金武町	
	中部	うるま市	沖縄市		
	南部	豊見城市	南城市	八重瀬町	
		南風原町	与那原町	糸満市	
	宮古	宮古島市			
	八重山	石垣市	竹富町		

対象果樹の種類	団地名	関係市町村		
パインアップル	北部	国頭村	大宜味村	東村
		今帰仁村	本部町	名護市
		宜野座村	金武町	恩納村
	八重山	石垣市	竹富町	
かんきつ類	北部	国頭村	大宜味村	東村
		今帰仁村	本部町	名護市
	中部	うるま市	沖縄市	
マンゴー	北部	国頭村	大宜味村	今帰仁村
		名護市	宜野座村	金武町
	中部	うるま市	沖縄市	
	南部	豊見城市	南城市	八重瀬町
		南風原町	与那原町	
	宮古	宮古島市		
	八重山	石垣市	竹富町	

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画(案)	現計画
<p>8 その他必要な事項</p> <p>(1) 圏域の特性を活かした果樹の振興方針</p> <p>ア 北部圏域</p> <p>タンカン、シークワーサー等のかんきつ類、マンゴー等の熱帯果樹類については、栽培技術の向上、栽培施設、農業用機械等の整備等を計画的に実施し、拠点産地の育成<u>および担い手の育成</u>に取り組む。生食用パインアップルについては、新品種の普及、栽培施設の導入を促進し、生産性および品質向上を図る。また、加工用パインアップルについては、優良種苗の導入、増殖、普及および農業用機械等の整備を行うとともに、中核<u>となる担い手</u>の育成・強化と生産拡大を推進し、生食用と加工用のバランスのとれた生産体制の確立を図る。<u>赤土流出防止においては、総合的な対策を実施し環境に配慮した生産体制の確立を図る。</u></p> <p>イ 中部圏域</p> <p>天草等の中晩生かんきつ類、びわ、マンゴー等の熱帯果樹類については、栽培施設および農業用機械等の整備、優良品種の導入検討によって高品質果実の安定生産、拠点産地の育成に取り組む。また、新規就農者の育成支援、園地集積等によって担い手の育成を図る。</p> <p>ウ 南部圏域</p> <p>マンゴーについては、栽培技術の向上、栽培施設および農業用機械等の整備を計画的に実施し、拠点産地の育成に取り組む。また、非破壊選果機が導入されていることから、選果データを活用した生産指導体制の強化を図り、安定した高品質果実の生産を推進する。その他熱帯果樹については、栽培施設および農業用機械等の整備等により生産拡大を図り、拠点産地の育成に取り組む。</p> <p>エ 宮古圏域</p>	<p>(削除) —8 県産果実の安全・安心の確立</p> <p>堆きゅう肥等の有機質資源を活用した土づくりや天敵等を活用した総合的病害虫管理技術（I P M）等の確立・普及により化学肥料や化学合成農薬の投入量低減に努め、エコファーマーの育成や「沖縄県特別栽培農産物」の生産拡大を図り、環境保全型農業を推進する。また、農薬の適正使用の徹底と農薬散布の記帳、農業生産工程管理（G A P）手法の導入等を推進し、安全・安心な県産果実の供給による消費者の信頼確保を図る。</p> <p>(ウ 県産果実の安全・安心の確立、に集約した。)</p> <p>9 その他必要な事項</p> <p>(1) 圏域の特性を活かした果樹の振興方針</p> <p>ア 北部圏域</p> <p>タンカン、シークワーサー等のかんきつ類、マンゴー等の熱帯果樹類については、栽培技術の向上、栽培施設、農業用機械等の整備等を計画的に実施し、拠点産地の育成に取り組む。生食用パインアップルについては、新品種の普及、栽培施設の導入を促進し、生産性および品質向上を図る。また、加工用パインアップルについては、優良種苗の導入、増殖、普及および農業用機械等の整備を行うとともに、中核<u>農家の</u>育成・強化と生産拡大を推進し、生食用と加工用のバランスのとれた生産体制の確立を図る。</p> <p>イ 中部圏域</p> <p>天草等の中晩生かんきつ類、びわ、マンゴー等の熱帯果樹類については、栽培施設および農業用機械等の整備、優良品種の導入検討によって高品質果実の安定生産、拠点産地の育成に取り組む。また、新規就農者の育成支援、園地集積等によって担い手の育成を図る。</p> <p>ウ 南部圏域</p> <p>マンゴーについては、栽培技術の向上、栽培施設および農業用機械等の整備を計画的に実施し、拠点産地の育成に取り組む。また、非破壊選果機が導入されていることから、選果データを活用した生産指導体制の強化を図り、安定した高品質果実の生産を推進する。その他熱帯果樹については、栽培施設および農業用機械等の整備等により生産拡大を図り、拠点産地の育成に取り組む。</p> <p>エ 宮古圏域</p>

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料2)

新計画（案）	現計画
<p>マンゴーについては、栽培技術の向上、栽培施設および農業用機械等を整備し、流通体制の整備等を計画的に実施し、拠点産地の育成に取り組む。その他熱帶果樹類については、優良品種の導入、栽培技術の向上および栽培施設等を整備し、生産拡大に向けた取り組みを実施するとともに、観光リゾート産業等への供給等域内の需要の拡大を図る。</p> <p>オ 八重山圏域</p> <p>パインアップルについては、生食用の優良種苗の導入、増殖、普及を図り、流通体制の整備等を実施し、拠点産地の育成に取り組む。マンゴー等の熱帶果樹についても、栽培技術の向上、栽培施設および農業用機械等を整備し、観光リゾート産業等への供給等域内の需要の拡大を図るとともに、拠点産地の育成に取り組む。<u>赤土流出防止においては、総合的な対策を実施し環境に配慮した生産体制の確立を図る。</u></p>	<p>マンゴーについては、栽培技術の向上、栽培施設および農業用機械等を整備し、流通体制の整備等を計画的に実施し、拠点産地の育成に取り組む。その他熱帶果樹類については、優良品種の導入、栽培技術の向上および栽培施設等を整備し、生産拡大に向けた取り組みを実施するとともに、観光リゾート産業等への供給等域内の需要の拡大を図る。</p> <p>オ 八重山圏域</p> <p>パインアップルについては、生食用の優良種苗の導入、増殖、普及を図り、流通体制の整備等を実施し、拠点産地の育成に取り組む。マンゴー等の熱帶果樹についても、栽培技術の向上、栽培施設および農業用機械等を整備し、観光リゾート産業等への供給等域内の需要の拡大を図るとともに、拠点産地の育成に取り組む。</p>

沖縄県果樹農業振興計画 新旧対照表 (資料 2)

新計画（案）	現計画
--------	-----